

# ハーモニー

第27号 2002年1月23日発行  
日本養護教諭教育学会

日本養護教諭教育学会

事務局：〒310-8512  
水戸市文京2-1-1  
茨城大学教育学部  
大谷研究室内  
TEL029-228-8298  
(Fax兼用)  
振替口座:00880-8-86414

## 目次

|   |         |
|---|---------|
| 第9回学術集会を終えて……………                              | 2, 3, 4 |
| 第9回学術集会アンケート結果……………                           | 5       |
| 研究班からの活動報告<br>「健康教育に必要な養護教諭の研究能力について考える」…………… | 6       |
| 日本養護教諭教育学会の英訳について……………                        | 7       |
| 会員の声……………                                     | 7, 8    |
| 研究助成金対象研究の選定について……………                         | 8       |
| 推薦委員決定報告……………                                 | 8       |
| 事務局より……………                                    | 8       |

## 第9回 学術集会を終えて

実行委員長 竹田由美子  
(神奈川県立衛生短期大学)

大変だった準備期間の長さ比べ、学術集会はいつの間にか終わっていたという感想です。

昨年、深く考えもせずに、実行委員長を引き受けた最初の仕事は、実行委員を選出することでした。少数精鋭の実行委員会で、前回の反省をもとに、学術集会の方針や運営方法の討論を重ねました。アンケート結果でも不便と指摘をうけた開催場所には悩みました。しかし、常日頃お忙しい諸先生方には、雑事を忘れることも必要と、敢えて葉山町にある会場にしました。

演題が集まるか心配だった研究発表に、たくさん応募があり、有難うございました。プログラム作成終了後の演題申込みもありました。来年は是非、演題締め切りを厳守されて多数お申込みいただき、実りある学術集会が開催されるようお祈りいたします。

次に委員長として、特別講演やシンポジウム担当の先生方に、委員会の趣旨を十分に伝えて講演いただくようお願いをしました。さらに後藤理事(研究担当)の助言を参考に、発表者には文書で発表や報告の仕方、座長の方にはフロアからの発言を取りあげての進行をお願いしました。どの発表もフロアからの発言が多く、本当に充実していたと思います。素晴らしい進行でした。

総会は、午後早い時間帯が理事会の意向でしたが、プログラムの最後にしました。

「養護教諭の英名」の討論が十分できたのではないのでしょうか。ただ、次回の総会の持ち方については、理事会と検討する必要があると思います。

「第9回学術集会が成功の内に終了」と報告できるのは、学会員の皆様のご参加と、理事の先生方、本学の事務局のご支援の賜物です。紙面をお借りし、心からの感謝とお礼を申し上げます。

## 第9回 学術集会後記

実行委員 畑中 高子  
(神奈川県立衛生短期大学)

今回学術集会実行委員をやらせていただき感じたことを述べさせていただきます。

学術集会の準備については5人の実行委員で約1年前から何回かの会議を持ち打ち合せをしてきました。「ハーモニー」や雑誌「健」に学術集会のお知らせが掲載されてからは、参加したいという熱心な関心が寄せられ、企画している方も安堵いたしました。しかし、学術集会開催間際の9月の下旬頃は勤務先の実習が開始していたので、研究室不在のことが多く、参加希望者からの問い合わせに対して十分に対応できなかったのではと思います、大変申し訳ないなあと思いました。実行委員の人数はもう少し多いほうが良かったのではと思います。

また、当日は会計を担当いたしましたが、アルバイトに卒業生や先生方をお願いしましたが準備調整不足からか、何人かの会員の方には重複して集金してしまいご迷惑をおかけいたしました。また、受付が混雑してしまい、もう少し、スムーズにいけば良かったと反省しております。いろいろな失敗を経験いたしましたが、今回この仕事を通じて、ある座長の方と一緒に研究をしていこうというお話や他校の会員とお知り合いになれたのは、大変であったけれども私にとってはとても良い啓発になったと思います。今回は宿泊があったことで夕食をかねての懇親会に会員方がとても多く参加され、ゆとりを持って懇親ができたのではないかと考えています。受付では何人かの会員方から、ご苦勞様ですねというおことばをいただき、とにかく無事に終わって現在ほっとしているところです。



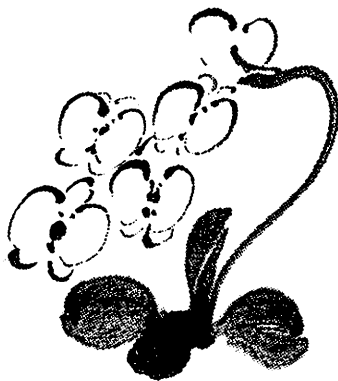
## 第9回 学術集会を終えて

実行委員 山崎 隆恵  
(神奈川県立藤沢北高等学校)

神奈川での学術集会を無事終了できましたのは、会員皆様のご協力のおかげと考えております。心から感謝いたします。

学術集会の準備に追われていたある日、養護教諭仲間から「当然県教委の後援をつけるのでしょうか？」と声をかけられました。考えたこともなかったのですが、非会員の方にも心配していただいたことをうれしく思いました。なるほどと思い、竹田由美子実行委員長と相談して手続きをとりました。時期が少し遅かったにもかかわらず、県教委の郡司先生には素早い対応をしていただき、感謝しております。県教委の後援を受けたのは、本学会では初めてのことと思います。これにより、神奈川県下の各学校に文書を配布することができ、県内からの参加者や会員の増加を図ることにつながり、会に貢献できたと考えます。

また、会場が研修センターであったことから、発表用視聴覚機器は最新のものを使用することができました。特に、パワーポイントは発表者のプレゼンテーションの向上に寄与できたのではないかと考えております。交通が少し不便な場所でしたが、このおかげでプラマイゼロ？と考えています。



## 学術集会後記

実行委員 中川 優子  
(藤沢市立片瀬中学校)

神奈川県で本学会の大会を行うのは2回目になります。1回目は横浜国立大学(教)附属養護学校の集会室を会場にして第1回研究大会を開催しました。そのときは看板や案内もすべて手作りで、閉会のときには参加者全員で合唱をして会を閉じました。あたたかい雰囲気にも包まれた大会だったことを思い出しました。

今回の第9回学術集会では“参加者の方に快適な環境の中で有意義な時間を過ごしてもらいたい”と会場を検討した結果、研修と宿泊の機能を合わせ持つ『湘南国際村センター』に決まりました。神奈川県葉山町にあるこのセンターは「富士を望み、眼下に相模湾が広がる緑豊かな湘南の丘に立つ…」という素晴らしい環境にも恵まれていました。また、今回の学会ではこのセンターの「セミナーパック(研修・宿泊・食事込み)」を利用しましたので、宿泊者の夕食を懇親会のかたちにすることができ、特別講演の講師の大草正信先生をご招待して、皆様と楽しい時間を過ごすことができました。

竹田由美子学会実行委員長を中心として実行委員全員で一年をかけて準備をしてきましたが、十分なお世話もできず、また、不行き届きな点多々あり、ご参加いただいた方々には、いろいろご迷惑やご不便をおかけいたしました。無事に第9回学術集会を終えることができましたのは、皆様のおかげだと思っております。そして、実行委員として学術集会の運営に再度参加させていただき、多くのことを学ばせていただきました。また、当日も多くの会員の方々からあたたかいお言葉をかけていただいたり、貴重なご意見をいただくこともできました。本当にありがとうございました。

## 参加者の声

### 学術集会に参加して

山道 弘子 (茨城大学大学院)

2001年10月6日・7日の二日間、神奈川県湘南国際村センターで「21世紀の養護活動と求められる能力」のメインテーマのもと、日本養護教諭教育学会第9回学術集会が開催されました。シンポジウムでは「21世紀に果たす養護教諭の役割—今あらためて養護教諭の固有性を探る」という、養護教諭の固有性と養護活動の未来への道程を探る壮大なテーマが展開されました。フロアからは多くの意見が飛び交い、参加者の養護教諭の本質を探る熱い思いが伝わってきました。養護の固有性を探る試みは、養護教諭独自の学問としての「養護学」の体系化を示唆するものとして重要な意味を持ち、今回の議論が「養護学」確立へ向けて一歩前進する機会となり得たように思います。

二日目の総会では「養護教諭」の英訳名について様々な見解が出されましたが最終的に「YOGO TEACHER」が採択され、「養護教諭」という日本独自の職種を世界に発信していきたいという強い願いが学会として承認されました。今後は「YOGO」の説明が課題として残されていますが、この課題は先の養護教諭の固有性、ひいては「養護」の概念規定、「養護学」の体系化に寄与するものでもあり、重要な意味を持つと思われまます。

また、初めての演題発表の経験からは、自分の研究を多くの方に知っていただき、ご発言いただく中で、研究の方向性や方法論を問い直す機会を得ることができ、研究を進めるうえで学会発表が重要な意味を持つことを確信しました。

自然に囲まれた葉山にて日々の疲れを癒すと同時に、研究への志向と決意をあらたにし、初心に帰ることができた二日間でした。

### 学術集会での 学びと出逢いを自分の糧に

古屋 淳子 (北海道・西興部中学校)

「先生、何か雰囲気違うね。前より頼れる感じがする。」「そう？10月6日と7日に神奈川に行って勉強してきたからかな。すてきな先生達と出逢えたよ。」学術集会後、学校に戻ると子どもが嬉しいことを言ってくれました。

今回初めて学術集会に参加させていただいて、シンポジウムや学会員の研究発表、そして素敵な会員の方との出逢いから、学ぶものがたくさんありました。シンポジウムでは、「子どもの心をぎゅっととらえた瞬間をいろんな事例から研究して、養護教諭の固有性をあきらかにしていくことがこれからの課題では」とおっしゃっていたシンポジストの言葉が心に残りました。また、総会の際に「養護教諭の英名」について白熱した話し合いがなされており、あらためて日本の養護教諭の独自性と先生方の熱い思いを実感しました。

念願の養護教諭になって2年目を迎えました。子ども達の不安や怒りに直面してともに泣き、悩み、そして困難を乗り越える力に感動する日々でした。「子どものがんばりに負けてられない。もっと良い仕事がしたい！」という思いから、後藤ひとみ先生に熱心なご指導をしていただいたおかげで学術集会で研究発表をすることができました。子どもの行動から何に問題意識を感じたか、自分がどう子どもと関わったか、どんな願いをもって指導をしたかを具体的に振り返ることで、自分の養護教諭としての想いを再確認し、さらなる課題を見つめ直すことができました。

学術集会で得たたくさんの学びとエネルギーを、子どもたちに返していきたいです。これからも、「子どもたちのためにがんばろう」という気持ちを忘れずにいたいと思います。

## 第9回学術集会に参加して

吉田あや子(西南女学院大学)

まず、今回の学術集会開催にご尽力されました実行委員の方々に感謝申し上げます。本当にすばらしい学術集会でした。会場は、高度な設備と宿泊施設を備えた国際会議・研修施設で、横浜に程近い風光明媚な場所にありました。夜間、数名の先生方と外に出てみると、周囲に多くの研究施設などがあり、海を配した夜景がすばらしく、一同思わず感動の声を上げていました。

学術集会の内容については年々充実してきており、今回は「21世紀の養護活動と求められる能力」をメインテーマとし、特別講演、シンポジウム、一般講演が行われ、新世紀にふさわしい活発な学会でした。三木先生座長によるシンポジウムでは、養護教諭の養護学構築と時代に対応した職務のあり方についての提言をはじめとして、三人の先生の提言やフロアの意見は、養護教諭養成をしている私にとって示唆に富むものでした。また口演では、現職養護教諭の先生方の意欲的な発表が目をひきました。

ところで、私は数人の先生方と7月にスクールナース国際学会(デンマーク)に参加し、海外の参加者と交流を深める機会を得ました。そこでは参加者一同が宿泊をともにし、アンケートやインタビューをさせてもらいましたが、その対応は温かく、各々の研究テーマや成果が日常生活の中に生かされているように思えました。他の国際会議よりは小規模でしたが、研究テーマ、内容は豊富であり、多くの会員と有意義な時間を共有できました。本学会もそのように、参加してホッとすることがあります。それは、養護教諭に求められる職務の特殊性かと思えます。日常生活の中で人を温かく見守ることが出来るような養護教諭を養成できるように、これからも一層精進していきたいと決意した学会でした。感謝!

## 第9回学術集会アンケート結果

第9回学術集会は10月6日(土)～7日(日)に『湘南国際村センター』(神奈川県葉山町)で開催され、全国から187人の方の参加申し込みがありました。多数の方にご参加いただき、学会実行委員一同、心より感謝しております。そのうち、31名の方から貴重なご意見をいただきました。どうもありがとうございました。

アンケートの結果は次の通りでした。

回答者数 31名

### 1. プログラムの構成について

〔・満足17 ・普通8 ・不満足2 ・無回答4〕  
・意見あり13

「バランスよく構成されていた。一会場で行うのにちょうどよい量」という内容の意見が多かった。他に「(季節や交通の便を考えると)特別講演の時間が遅い」という意見もあった。

### 2. シンポジウムについて

〔・満足17 ・普通10 ・不満足1 ・無回答3〕  
・意見あり15

「時間の不足をやや感じましたが、内容的には充実していた」「フロア内の意見交換にしたのがよかった」「演者の人数とバランスがよい。(年令も)」という内容の意見が多く、ほとんどの方が「満足した」と評価していた。また、「シンポジストに小学校の養教をその一人に加えてほしかった」という意見もあった。

### 3. 共同研究について

〔・満足10 ・普通11 ・不満足3 ・無回答7〕  
・意見あり10

「内容の充実もあり、とてもよい勉強をさせて頂きました」「是非、研究とすすめてほしい」「内容的には満足していますが、もっと時間が欲しかった」という意見や「…(略)…より明確な専門性のConceptと、固有性、独自性を打出してほしい」という意見もあった。

#### 4. 一般の自由研究について

〔・満足8 ・普通15 ・不満足3 ・無回答5〕

・意見あり13

「演題も10題ありよかった」「10本は多い。少なくして時間配分を十分に」「もっと多くの演題が発表されると良い」など演題数について様々な意見がよせられた。そして、「勉強になりました。サマーキャンプに参加したいと思いました」「研究として扱えるもの、報告もしくは、資料であるもの、レベルが様々です」「実践発表が多く、学問的なつまみももっと欲しく思った」「十分練り上げられた力作もあり、若い人の研究に期待する。用語の定義、研究の限界を書くなどの基本ルールをきめるとよい」など発表の内容についても多くの意見があった。

#### 5. その他（学術集会に関するご意見・ご感想）

・意見(感想)あり：23

「全プログラムが1室で行われたので、あちこちに移動する必要がなく良かった」「全部の発表に出席可能な1泊2日でよかった」「宿舍と会場が一体となっていたところが大変よかった。懇親会=夕食というのもよいアイデアだと思われた」「国際会議場は快適な設備」など今後の学会運営に参考になるような貴重な意見や感想を多くいただいた。

#### 6. 学術集会を何で知ったか（当日会員の方）

・記入あり：6（雑誌から3 会員から1  
知人から1 その他1）

雑誌で本学会を知った方から「申込みの方法が、わかりづらかった」という意見があった。

アンケートにご協力くださった方々にお礼申し上げます。皆さんからいただいた貴重なご意見を次期学術集会にいかしていただくために、第10回学術集会の実行委員の方へ申し送りました。

#### 研究班からの活動報告

### 健康教育に必要な 養護教諭の能力を考える

小林 央美（青森県総合社会教育センター）

2001年9月15～16日、東京代々木のオリンピックセンターにて第3回会合を実施。研究班員が各自で「養護教諭自身が行い書籍などに掲載された健康教育の実践記録」をもとに「健康教育に必要な養護教諭の能力」を分析したものを持参し、各自の「実践分析の視点」を発表し合う中から、以下のことを確認した。

#### 1 本研究の対象となる健康教育について

集団、個別等の様々な形態や場で養護教諭が関わる健康教育の実践分析結果から、研究目的に照らして研究対象となる健康教育の絞り込みを行った。

#### 2 実践分析の方法について

健康教育に必要な能力を実践から引き出すための方法は、以下の三つの理由で実践者に直接インタビューする方法をとることに決定した。

- ① 能力とは実践の事実を支える力である。ゆえに実践から能力を引き出すためには、推測を加えることなく、実践の事実を確実に捉えなければならない。
- ② 実践記録として表された実践は、紙面の都合で割愛されたり掲載された本の特色により一部を焦点化されて表現されたりしており、実践の全容や養護教諭の考えを的確に把握しにくい。
- ③ 文字に表されたもののみに依拠して実践分析をした場合、実践事実内に内在する能力は引き出すことができても、それが「健康教育に必要なとされる能力」を包括することができるかどうか疑問である。

今回は、12月15～16日にオリンピックセンターにて、実践分析の視点を検討すると共に、直接インタビューによる分析を行うことになっている。

# 日本養護教諭教育学会の 英訳名について

## 理事会

2001年10月7日に開催された第10回総会において、日本養護教諭教育学会の英訳名として、“JAPANESE ASSOCIATION OF YOGO TEACHERS” (J.A.Y.T.) を提案した。提案に際して、ワーキンググループ代表が検討の経過及び下記のような提案理由を報告し、種々協議の結果、原案どおりに承認された。

### 《提案理由（配布資料の抜粋）》

ワーキンググループの役割は、「日本養護教諭教育学会」の英訳名を検討し、その原案をまとめることであった。そこで、まず「養護教諭」の英訳検討を行い、その根拠を整理した。以下は、提案の理由となる検討の経過である。

#### 1) 「養護教諭」の英訳について

検討の結果、“school nurse” “school health teacher” “yogo kyoyu” “yogo teacher” という4つの意見にまとめられたが、各々には次のような問題と意見が出された。

- ① “school nurse” を用いる場合；日本の養護教諭には必ずしも看護婦免許は課されていない。教育職員免許法に規定された免許状を持ち、学校教育法に根拠をおく教育職員である。諸外国と法制度が異なる。
- ② “school health teacher” を用いる場合；学校保健の担当教師、または学校における保健（教科）の先生と混同する。
- ③ “yogo kyoyu” を用いる場合；kyo の発音が欧米人には難しい。また、kyoyu は teacher と言い換える必要がある。
- ④ “yogo teacher” を用いる場合；yogo は日本独自の制度であるからわかりにくい。説明が必要である。

①②③④のいずれの意見にも一長一短あるが、第1回会合で確認した「日本の養護教諭の発展につなげる」という視点をふまえて、日本に固有の

「養護教諭」が持つ優れた独自性を世界に発信する、つまり、「日本語の yogo をつかさどる teacher」という意味で“yogo teacher”で発信するという案に絞った。ただし、「養護をつかさどる」を説明する英文は引き続き検討しなければならない。

#### 2) 「日本養護教諭教育学会」の英訳名について

「学会」の表記として association, society, academy を考えた。検討の結果、関連学会の表記に合わせる、教育や健康・福祉・保健・栄養等の分野で学際的に青少年の健康問題に関わる人々に開かれた学会であることを表す、school nurse 等との広い国際交流を考えるとという理由から、連合体を意味する“association”が適当であると判断した。

以上の提案に対して、「説明文とセットで次回の総会で提案してほしい」という動議が出されたが、賛同者2名で否決された。提案内容に関する質疑応答を経て、原案に賛成する意見が出され、採決の結果、承認された。

なお、“YOGO”を説明する英文については、第11回総会までに原案を作成することとし、そのために、ワーキンググループの活動を2002年度の学会助成研究として継続させることにした。

### ハーモニーに寄せられた会員の声

#### 「医療的ケア」を研究議題に

会員の皆様のご意見をお寄せください

「医療的ケア」が必要な子ども達が、就学基準の変更により、通常の学級でも教育を受けることが可能になりました。しかし、多様で、特別のニーズを有する子ども達への支援上の問題や環境整備の立ち遅れの現実があります。養護学校や通常の学級で教育を受ける「医療的ケア」を要する子ども達に、「自己の持つ能力や可能性を最大限に伸ばし、自立し、社会参加していける基礎的力」をどう培うかが、教育職員である養護教諭にも求められています。

日本養護教諭教育学会として、この課題を検討することを望みます。(天野敦子、鎌田尚子、岡田加奈子)

## 他山の石

大谷 尚子（茨城大学、本学会理事長）

本学会の総会が終わった次の週の新聞日曜版の記事を読みながら、本学会のことが気になりました。

記事は「なんでこんな学問にかかわっちゃったんだ」という記者の言葉から始まっています。それは旧石器発掘ねつ造事件を引き起こしてしまった学界に連なる苦悩を表現したものでした。事件を起こしたその学界に対して「アマチュアの集団ではなかったか」と言及しています。それは、ねつ造した個人の問題ではなく学界の問題なのということです。「論証に際しては極力私情を排除しなければならない。事実を事実のまま評価する客観性。自らの意見を進んで論文にし、必要なら論争もいとわない。それがプロとアマの違いなのだ」と喝破しています。

彼は更に言います。「あきれることは山ほどあった。学術発掘をしたのに報告書を出していない、感情に走りがちでまともな議論ができない。が、何より呆然としたのは、学問体系全体の信頼が問われているにも関わらず、『自分が〇〇の専門じゃないし、関係ない』という研究者があまりにも多かったことだ。」と。

本学会も、真実を探求するためのプロの集団として成長していかなければなりません。

例えば、1週間前の学会総会で養護教諭の英訳について論議しましたが、これも、本学会がプロの学会としてあるかどうかを示す試金石のように思います。結果の適否よりはまず、学会として真理を探求するプロセスが充分であったのか、多くの会員により納得できる議論が展開されたのだろうかということが気になっています。真理は一部の者の多数決で決まるものではありません。

本学会が学問追求する団体として成長することを願ってやみません。

## お知らせ

### 研究助成金対象研究の

### 選定について

第10回総会において、2002年度の研究助成金対象研究として、以下の研究への助成を行うことが認められました。

#### 1. 学会共同研究「健康教育に必要な養護教諭の能力について考える」（継続）への助成

研究目的；時代に即応した子どもの健康問題に的確に対応し、健康に生きる力を育てる「健康教育に必要な養護教諭の能力」を明らかにする。

#### 2. 「養護教諭の英訳および本学会の英名に関するワーキンググループ」（継続）への助成

研究目的；“Yogo Teacher”の発信に伴って必要となる“Yogo”（養護教諭の役割・機能等）を解説する英文の原案を検討する。

## 推薦委員が決まりました

第10回総会において次の4名の方が推薦委員に決定しました。次期役員を推薦するために必要な作業をこれから1年間行っていただきます。

推薦委員（届け出順）

下村 淳子（愛知教育大学附属高等学校）

藤井寿美子（愛知女子短期大学）

曾根 睦子（全国養護教諭連絡協議会）

中村 朋子（茨城大学教育学部）

## 事務局より

次期学術集会において、ワークショップを開催する予定です。このことにつきまして、何か要望がありましたら、2月28日（木）までに、学会事務局までご連絡ください。